

令和4年度

印西市民アカデミーだより

第3号

講座3：歴史散策「木下河岸」

6月10日（金）、江戸～明治時代にかけて、江戸への重要な輸送路となる水上交通の拠点として大いに栄えた「木下河岸」周辺を散策しました。中央公民館を出発し六幸橋を渡り手賀排水機場へ。この排水機場は、国営手賀沼干拓事業により昭和31年に完成した排水機場です。手賀沼に流入する洪水を利根川に強制排水することで受益地3,400haを保全しており、防災上も重要な施設となっています。さらに進み干拓稲



荷神社の前を通り利根川の堤防へ。上流の栄橋方面に目をやると利根川が大きく蛇行している様子がわかります。江戸時代の利根川東遷事業の一環で布佐と布川の間を手彫りで掘って利根川の流れを南側に大きく変えました。堤防を下流方面に進むと木下河岸跡の案内板があります。案内板には江戸時代の

の河岸の様子が描かれた絵とともに、江戸からの三社詣(鹿島神宮・香取神宮・息栖神社)の旅人で大いに河岸が賑わった様子が書かれています。寛政(1789～1801年)のころには年間5,000艘もの船が木下河岸から利根川を下ったといえます。現在、旅人が宿泊した利根川沿いの船宿は、堤防のかさ上げ工事に伴い埋め立てられ往時の様子を伺い知ることはできません。堤防の外側には、手賀沼と利根川をつなぐ川が流れていきましたが埋め立てられて道路となっています。その道路を横断し、街中に入ると三差路の入口付近に印西

郵便発祥之地と刻まれた石碑があります。その後方あるのが廻船問屋吉岡家の敷地になります。敷地内には、当時の土蔵が改修され「吉岡まちかど博物館」として公開されています。さらに奥に進むと木下貝層で造られた高さ一間ほどの大きな灯籠があります。メインストリートに戻り西方向に進ながら地図を見ると、明治時代のころとほぼ同じ区割りの家が建っていることに気づきます。間口は狭く奥に長い京町屋と同じです。



途中、山根山不動尊を訪問。境内には平将門の愛妾だった小宰相(桔梗の前)の供養塔があります。左折して木下小学校(明治6年創立)の下の道を進み、印西市木下交流の杜歴史資料センターを見学。館内には、木下地区周辺の原始から近代初めまでの歴史資料を展示しています。木下河岸のジオラマや蒸気船銚港丸の模型、木下茶船の模型なども展示されており、木下河岸の様子が手に取るようにわかります。見学後は隣接する木下万葉公園へ。ここにはサークル状の立派な藤棚があり、開花時は紫の花々が風に揺れてとても綺麗です。藤棚の近くに木下音頭の碑(作詞サトウハチロー作曲杉山長谷夫)があります。階段を下りて国天然記念物指定の木下貝層へ。この貝層は、12～13万年前に形成された貝化石を多量に含む地層です。この辺一帯が海だったことが理解できます。見学後は上町観音堂へ。この観音堂には、県指定有形文化財の銅造十一面観音立像が安置されています。毎年8月9日に護摩焚きが行われ開帳されます。最後の木下駅に向かいます。木下駅は、明治34年に開業されました。駅前に新道が作られ木下河岸から商店が移転してきて新たに商店街が作られました。駅前には、木下の名物となっている木下せんべいの店が現在も営業しています。駅前ロータリーを通過し再び六幸橋を渡り中央公民館へ。行程約4.4kmの楽しい散策でした。